

送 辞

冬の厳しい寒さも和らぎ始め、草花の香りが春の訪れを運んでくる季節となりました。このような佳き日に新たな門出を迎えられる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方が作新学院大学に入学してから早四年、皆様の四年間の大学生活はどのようなものだったでしょうか。期待に胸を膨らませた入学の日から、思うようにいかず悩んだ日々、新しい環境に挑んだ日の緊張の瞬間……。その一つ一つがかけがえのない時間だったのではないのでしょうか。授業や研究、部活動やサークル活動、友人との交流の中で、喜びも葛藤も重ねながら、自分自身と向き合い続けてこられた四年間だったと思います。楽しいことばかりではなく、不安や迷いに押しつぶされそうなこともあったはずです。それでも歩みを止めず、努力する姿は、私たち在校生の憧れの存在でした。先輩方との実習の経験を話し合うひとは、私にとって大切な学びの時間でした。課題への向き合い方や将来の考え方を伺う度、自分にはなかった視点や価値観に気づかされ、物事を多面的に考えられるようになりました。貴重な先輩方との時間も今日で終わりかと思うと、大きな寂しさを覚えます。

近年は生成AIの普及により、新しい技術が学びや生活に新たな可能性をもたらしました。しかし、考える前に技術を活用することで、他者とのリアルな話し合いの機会が失われる懸念もあります。便利さが増す一方で、その技術をどう活用するのかは私たちに委ねられています。便利さと不安が同時に押し寄せるこの時代において、先輩方は立ち止まることなく、自ら考え、仲間たちと協力し合いながら歩みを進めてこられました。困難な課題に直面しても対話を重ね、変化を恐れるのではなく、変化を新しい力に変えていく。その背中があったからこそ、私たちも恐れずに皆で挑戦する勇気を持つことができました。私達は先輩方にしてもらったように、後輩に今までの歩みを繋いでいけるよう努力して参ります。また、後輩に教え伝えるだけでなく、後輩からも学び、共に様々な面で成長できればと思います。

毎日がこれまでのあたりまえとは違う変わりゆく世の中、その全てに適応することはとても困難なことだと思います。大きな課題という逆風に見舞われた時には、この作新学院大学で過ごした四年間の中で得た様々な経験と、先輩方に支えられた後輩がいるということを思い出してください。それが、皆さんの未来へ続く道しるべとなることを切に願っています。どうか、己の力を信じ周囲とのつながりを大切に、力強くそれぞれの未来へ羽ばたいてください。

最後になりますが、本日卒業を迎えた皆様に、心よりお祝いと感謝を申し上げますとともに、今後における皆様の更なるご活躍とご多幸を祈念して、送辞とさせていただきます。

令和8年3月15日
作新学院大学 人間文化学部
在校生代表 斎藤 理愛

